

「新しい人を着る」

～キリストのことばを住まわす～

ヘブル4：12

日本とインドのうそをつくことの価値観の違いや、国や個人におけるトイレのルールの違いを見ても、自分の人生の価値観がどれほど普通ではないかを思われます。そのことを感じながら、「正義」について考えていきましょう。神の聖書のことばは、人びとのほかりごと（私たちが生きてきた価値観）を分別する力があります。（ヘブル4：12）神は正義であるので、私たちが正義を追い求めようとします。

■ 正義とは？ ミシュパド ツダケー

人がしていることが正しいかどうかは、私たちは正義を用いて判断します。あなたの正義の基準は自分の価値観でしょうか。聖書がミシュパドとツダケーの二つの正義を用いたのには深い意味があります。「ミシュパド」は罪を制する・間違っただけを戻す、「ツダケー」は尊厳・そこに表わされる愛という意味があります。神様の正義は、ミシュパドとツダケーを両輪にした正義です。神様は、私たちに正義の道を進ませるために、罪を制し、その罪を犯した時には罰を与えるこの世の秩序をもっています。同時に、愛とその人に与えられた尊厳によって、その人が祝福されるということをもっています。神様は我々に似るようにと人間を創られました。だから人間は、神のその愛のゆえに自らも愛される存在であることが分かっており、間違っただけから元に戻ろうとする力をもっています。無機質なたんばく質からサルに、サルから人へ進化したという無神論者の説では、愛の尊厳はあり得ません。しかし、義を理解するとよく分かるのです。神様は我々に似るようにと人間を創られたので、人間が今いちばんに求めていることは自分の存在価値です。神様は自らの存在を正義としました。この正義とは、愛し愛されるものであります。愛の反対は憎しみで、これは正義ではありません。神様は我々に似るようにと、絶えず愛されるものとして人間を創られました。ところが、その愛に正義ではない自己義というものが加わりました。自己義は私たちの価値観に基づく判断です。そして正義と自己義が対立する社会になりました。正義と自己義が対立する中で求めるようになったものは、自分が人から正しく扱われているかということです。私たちクリスチャンは、神様に会って存在価値や存在意義を見出すことができました。だから、夢をもって勉強に励むことができ、神様の用意された最善の道を歩もうとすることができるのです。うまくいかないことも意味があると感じ、外部に影響されなくなります。なんでこんな仕打ちになるのだと失望しているとしたら、ミシュパドとツダケーが分離した状態です。私たちクリスチャンは、このミシュパドとツダケーの両方を尊ぼうとします。愛し愛される存在であることを理解するので、間違っていたものから元に戻ろうとします。このように正義というのは、自らの状態が絶えずズレない状態です。聖書が書かれた根底は、いのちを得るためであると書かれています。（ヨハネ20章31節）いのちを得るということは、そこに生きる価値があることであり、この二つのミシュパドとツダケーの要素を使うということです。いのちの根底には自らの存在意義という根底があります。

良きサマリア人の話は正義を表しています。偉いと言われていたパリサイ人は、強盗に襲われ倒れている人を当時のルールに従い汚れている者として、反対側を通り過ぎていきました。しかし、差別されていたサマリア人はその人をかわいそうに思い介抱しました。パリサイ人はミシュパドの目線で見、その人を裁いたのです。サマリア人はミシュパドとツダケーの目線で見、その人の尊厳が侵されたのを救済したのです。この両輪のバランスを欠くと罪になります。この壊れたバランスをひとつにしようとしたのが、イエスキリストの十字架です。悪を捨て去り古い人を脱ぎ捨て、新しい人（キリスト）を着なさい、と書かれています。（コロサイ3：8-17）

① 御ことばで神様と交わる

みなさんは聖書のことばで物事を判断しているでしょうか？冒頭でも話したように聖書のことばは、私たちが生きてきた価値観を分別する力があります。（ヘブル4：12）自分の価値観で生きれば、どちらかの正義に偏るので、争いが起こってしまいます。ツダケーでずっと接すればその人は甘えて立ち直れない人になり、ミシュパドの正義で裁き続けられればその人は死んでしまいます。大事なものは両輪であって、私たちは義を自分のうちにしっかりと留めなければなりません。その人の尊厳をもって、愛し、元に戻すことです。

② 御ことばは回復をもたらす ③ キリストのことばで教え合う 救済 援助 自立

教会は、救済→援助→自立に向かうところです。どれかを重点的にするのはなく、本当の回復がなされるのが大事です。人を見る目線ではなく神様の目線が大事です。イエス様であるサマリア人は、その人が自立して生きられるように道を示しました。

聖書はイエスキリストの生き様が書かれています。一人の人に寄り添い、その人の価値観を神様の価値観に戻す方法で向き合う生き方です。イエス様と向き合った人は、自分を尊い存在だと気づきます。自分が愛されて尊い存在であると分かると人は変わります。すると、人を裁くことがなくなります。自分の尊さで人の尊さを見出すからです。愛された人は人を愛することができますが、愛されたことのない人は愛することができません。同じように、裁かれた人は人を裁き、裁いた自分も裁かれるようになっていってしまうようになります。悪に立ち向かうという正義の名のもとに人が起こす戦争は、はたして正義でしょうか。殺された人びとの尊厳は侵されています。正義が偏っています。しかし、私たちが神の御前に出るとき、本当の正義を見出すことができます。正義はその人に最大の愛をもたらす方法なのです。その人の尊厳を見るからです。尊厳とは、神様とつながって愛を確認できることです。その愛を握って、その人の本当の姿で生きることです。存在価値を知って、人に愛を流すことです。神様は我々に似るように私たちを創られました。神は愛されるべき感謝されるべき礼拝されるべき存在です。しかし、似るように創られたのに私たちは自分が神になり、感謝されるべき崇拝されるべき存在になっているとしたら、大変危険です。だから、人から感謝されないと報酬を得ないと動けなくなってしまっています。無条件で愛せなくなっています。相手が愛するなら愛すという条件付の愛でしか愛せなくなっています。しかし、あなたはすでに愛されている存在なのです。イエスキリストの十字架が示しています。イエス様は、あなたが大切だから、私たちの裁く心や痛みを背負うために十字架に架かれ、私たちが間違っただけを正しく教え合い、御ことばによって生きる人生を望んでおられます。新しい人（イエスキリスト）を着るとは、御ことばによって生きることです。あなたを愛している神様の御前に出てください。そうすると、あなたが求めている愛された評価されたいという必要もすべて満たされます。神様もあなたとの交わりを求めています。あなたを理解するのもあなたの存在価値を教えるのもあなたを創ったのも神様なのです。また、あなたの家庭ではどうでしょうか。夫婦はお互い尊厳をもっているのでしょうか、子どもたちは存在価値を見出させているのでしょうか。今までの価値観を下ろして、新しい人（イエスキリスト）を着て生きてください。

（要約者：高橋 奈津江）

（2月11日）